

No.208から続く

iii) ペレストロイカの具体的中身は、国内的には計画経済を基本にしながら【1: 】の導入をはかり、言論の自由、信仰の自由などの政治的市民的自由を認めること。しかし結果として、高まる民主化圧力により社会主義体制は破綻し、ソ連自体が解体することになる。外交面では①新思考外交と②東欧社会主義諸国に対する指導性の否定である。

①ゴルバチョフ時代の緊張緩和外交を【2: 】と呼ぶ。経済停滞の大きな原因となっていた軍事費を削減するため、1987年にアメリカと中距離核戦力（INF）全廃条約を締結した。これは米ソが初めて核兵器削減に合意した画期的な条約である。ゴルバチョフはレーガンと、ジュネーヴ（1985年11月）、レイキャビク（1986年10月）、ワシントンD.C.（1987年12月）、モスクワ（1988年6月）と四度にわたって首脳会談を行っている。主な議題はいずれも軍縮と東欧問題。たとえば、1986年10月11日レイキャビク（アイスランド）会談では、当時アメリカが進めていたSDI（スターウォーズ計画）を巡ってレーガンと対立し、結局何も進展はなかったが、当時の超大国が話し合って歩み寄ろうとしている姿が世界に示された。1989年には【3: 】からの撤退を完了した。中ソ論争も解決した。

②東欧社会圏の諸国に対するソ連ないしはソ連共産党の指導性は否定された（なぜかこれを「シナトラ・ドクトリン」と言う）。これは、正式には1988年の【4: 】で明文化された。東欧社会主義圏の諸国はこれに俊敏に反応し、1989年の東欧革命のような変革が起きた。ゴルバチョフは、ハンガリー動乱やプラハの春（チェコ事件）の時のように、武力による民主化運動の鎮圧という立場を取らなかった。中華人民共和国で1989年に発生した天安門事件が国際的な非難を浴びたことから、西側諸国からの外圧を恐れて、強硬な措置を取らなかったとも考えられる。《補足》日本ではロシア語そのままペレストロイカと表現するが、英語圏では「リストラクチャリング」（restructuring）や「リコンストラクション」（reconstruction）と訳されている。これは「リストラ」の語源。

### ジョージ・H・W・ブッシュ大統領

（第41代 共和党 任1989-93 父ブッシュ） レーガンの副大統領。

息子は第43代大統領ジョージ・W・ブッシュ

#### 1) 既にベルリンの壁が崩壊

ゴルバチョフは従来から冷戦の緊張関係を緩和させる新思考外交を展開していたが、ドイツの東西分裂とベルリンの壁の存在は、冷戦の代名詞でもあり、いくら緊張緩和といってもベルリン問題を解消しない限り「冷戦の終結」とはいえない状況であった。ベルリンの壁が1989年11月に崩壊したことで、東西ドイツの統一に一応の目処が立った。マルタ会談は、壁崩壊から1か月後の1989年12月3日である。

なお、この時点で1989年の東欧革命は、ポーランド（6月18日）とハンガリー（10月23日）における非共産党国家の成立によって既に始まっており、11月9日のベルリンの壁崩壊後、11月17日のチェコスロヴァキアのビロード革命を経て、12月25日のルーマニアのチャウシェスク政権の崩壊に至るまで進んだ。

#### 2) 同じく軍事費の増大に苦しむソ連のゴルバチョフ政権と協調し、「第二次冷戦」だけでなく、冷戦そのものを終わらせた。1989年、地中海に浮かぶマルタ島の沖合に停泊するソ連の客船マクシム・ゴーリキー号内で、ブッシュ（父）とゴルバチョフは会談し、冷戦の終結を宣言した。これが【5: 】（1989年12月末）である。これをもって、40年以上続いた冷戦は終結した。人類史的功績である。ただし、マルタ宣言という文書は存在しない。共同声明は出されたが、特に具体的内容はない。共同声明に当たって、全世界のメディアを前に公式に述べた両首脳のスピーチが冷戦終結の宣言に相当する。

ゴルバチョフは次のように述べた。「世界は一つの時代を克服し、新たな時代へ向かっている。我々は長く、平和に満ちた時代を歩き始めた。武力の脅威、不信、心理的・イデオロギイ的な闘争は、もはや過去のものになった。」「私はアメリカ合衆国大統領に対して、アメリカ合衆国と戦端を開くことはもはやないと保証する。」

ブッシュ大統領はこれに対し、「我々は永続的な平和と、東西関係が持続的な共同関係になることを実現することが出来る。これはマルタで、ゴルバチョフ議長と私がまさに始めようとする未来の姿だ。」と述べた。

なお、マルタ会談は1945年2月の米ソ首脳会談で、米ソの利害を調整することで大戦後の国際秩序（マルタ体制）を規定し、東西冷戦の端緒ともなるとされているので、「マルタからマルタへ（"From Yalta to Malta"）」と言われる。マルタでもマルタでも、宣言は出ていない。宣言が出たのはポツダム会談（1945年7月）。

#### 3) ブッシュ（父）は、1991年からの湾岸戦争では、多国籍軍の主力としてイラクのフセイン政権に大打撃を与え、クウェートから撤退させた。しかし経済政策は不調で、2期目の選挙でクリントンに敗れた。

### 2016 関西学院大学（抜粋）

#### ③ 「冷戦」に関する記述として、誤りを含むものはどれか。

- ソ連・東欧圏は、ヨーロッパの経済復興計画であるマーシャル=プランへの参加を拒否した。
- 「封じ込め政策」に対抗するソ連は、経済相互援助会議（コメコン）を設立した。
- チャーチルは、ヨーロッパにおける東西両陣営の境界を「鉄のカーテン」と表現した。
- クリントンとゴルバチョフが、マルタ会談で冷戦終結に合意した。

## 米・ソ（ロ）核関連条約のまとめ（復習）

《米ソはキューバ危機を乗り越え、緊張緩和を進めた「雪解け」期》

- 1963年 アメリカ、イギリス、ソ連で【6: 締結 地下核実験は可能 No.202参照。  
米英ソの核兵器独占の維持をねらう側面もあったので仏、中は調印せず。
- 1968年 **核拡散防止条約** (NPT) 56カ国調印 → 187カ国調印(2000年5月現在) No.202参照。  
(核兵器の保有を米ソ英仏中の5か国に限定し、非保有国の製造・取得を禁止するもの)

《デタント期の核兵器制限交渉》

- 1972年 **戦略兵器制限交渉（第1次）** SALT I 大統領 ニクソン、書記長 ブレジネフ No.203参照。  
戦略ミサイルの数を制限しつつ均衡を保つことで相互に先制攻撃を自制。「恐怖の均衡の理論」
- 1973年 核戦争防止協定 米・ソ間の偶発的核戦争の勃発を防止することが目的。
- 1979年 **戦略兵器制限交渉（第2次）** SALT II 大統領 カーター、書記長 コスイギン No.203参照。  
戦略兵器の運搬手段や総数を制限する。運搬手段の内容も第1次よりずっと詳細。米ソ対等。  
6月、調印したが、ソ連の【7: 侵攻でアメリカ議会が批准せず、1985年末に断念したので発効しなかった！

《デタント期以降の取り組み》

- 1987年 【8: レーガン、ゴルバチョフ 1981年から交渉
- 1989年 マルタ会談 冷戦終結。

ここまでが復習

- 1991年 **第1次戦略兵器削減条約** (START I) 調印 レーガン → ブッシュ (父)、ゴルバチョフ 1982年から交渉  
1983年にレーガン大統領が戦略防衛構想 (SDI) ※1を打ち出したため、一時進展しなかったが、最終的には戦略核運搬手段と核弾頭を削減することが合意された。  
ソ連消滅後は、条約はロシア・ウクライナ・ベラルーシ・カザフスタンに引き継がれた。
- 1993年 **第2次戦略兵器削減条約** (START II) 調印 ブッシュ (父)、エリツィン  
両国が核弾頭を3000～3500発に抑えることを決めたが、弾道弾迎撃ミサイル (ABM) 制限条約の改正問題から、アメリカ議会が批准しなかった。2003年発効の米ロ間の戦略攻撃能力削減条約によって、この条約は実施されないことになった。
- 1996年 **包括的核実験禁止条約** (CTBT) が国連総会で採択された。……未発効  
地下爆発実験を含む全ての核実験を禁止する条約。イギリス・フランス・ロシアは批准したが、アメリカ・中国・インド・パキスタン・イスラエル・北朝鮮の批准も必要のため、いまだに発効していない。なお、この条約が発効したとしても、**臨界前核実験** ※2は規制されない。

※1 戦略防衛構想 (SDI) は1983年にレーガンが命じたが、1985年にソ連がゴルバチョフ書記長時代になり、対話路線に転じたこと、余りにも予算がかかること、当時の水準では技術的ハードルが高いこと等から棚上げにされ、1993年に正式に放棄された。しかし、レーガン政権を継承したブッシュ (父) 政権はソ連とのSTART Iの調印に踏み切りながら、一方ではSDIを継承し、より実現性のある核防衛体制として、弾道弾迎撃ミサイル防衛 (BMD=Ballistic Missile Defense) 構想を掲げた。

実は、BMDは日本でも既に実働している。BMD能力を持つ一部のイージス艦が、水平線に現れた弾道弾を捕捉し、SM3ミサイルで迎撃するというもの。海上自衛隊のBMDイージス艦は分離型準中距離弾道ミサイル標的を4回中3回、迎撃に成功している。洋上撃破に失敗した場合は、PAC3などの地上配備型の地对空誘導ミサイルで撃破する。しかし、それでも全弾迎撃できる保障はない。突入を許してしまえば、弾頭は核なので甚大な被害が予想される。迎撃に成功した場合も、核汚染を免れない。

※2 臨界前核実験あるいは未臨界核実験とは、核物質を臨界状態に至らない条件に設定して行う核実験。核兵器の新たな開発や性能維持のために行われる。アメリカ合衆国やロシアなど、過去の核実験のデータを蓄積した核保有国において行われている。核物質が臨界に達する前の段階で実験は終了するため、通常の核実験で起こるような（閃光・熱・爆風を伴う）核爆発は発生せず、環境に対する汚染もない。包括的核実験禁止条約 (CTBT) は、第一条において核爆発の実施を禁止対象としているが、臨界前核実験は核爆発を伴うものでないため、CTBTの禁止対象とはなっていない。

ミサイル用語 ICBM=大陸間弾道弾、SLBM=潜水艦発射弾道ミサイル、ABM=弾道弾迎撃ミサイル。  
BMD= 弾道弾迎撃ミサイル防衛

①戦術核兵器：戦場単位で通常兵器の延長線上での使用を想定した核兵器である。戦略核兵器や、戦域核兵器（中距離核兵器）に対して射程距離が短い。米ソ間の核軍縮協定などでは射程距離500km以下のものが戦術核兵器であると定義されている。戦術核兵器には空対空・空対地・地对空・地对地 (SRBM) のミサイルおよびロケット弾、航空機搭載の核爆弾、核砲弾、核地雷、核魚雷、核爆雷などの種類がある。

たとえば、核砲弾とは原爆を内蔵した砲弾で大型の大砲から射出する。最高深度にまで沈降した原潜を破壊するには核爆雷（原爆）しかない。核魚雷は交戦相手国の艦隊を1発で全滅させうる。

②戦略核兵器：戦略的目標に対して使用される核兵器のこと。定義は曖昧であるが、一般的には戦術核兵器より威力が大きく、敵国の軍事基地や行政機関、人口密集地、エネルギープラント等の比較的大規模な目標の破壊を目的とする核兵器に用いられる。

①②の区別は必ずしも核弾頭の出力で決まるものではないが、水素爆弾の核弾頭は一般論として②であろう。一連の核兵器削減交渉で「戦略兵器」と呼んでいるのは水素爆弾の核弾頭を持つ戦略核兵器のことである。